

研修No. 1 1

2022 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023 年 3 月 13 日
研究・研修課題名	体外循環 (ECMO・人工心肺)・補助心臓の技術向上および、人工心臓管理技術認定士・体外循環技術認定士取得のためのセミナー参加
研究・研修組織名 (所属)	体外循環 (ECMO・人工心肺)・補助心臓の技術向上および、人工心臓管理技術認定士・体外循環技術認定士取得のためのセミナー参加 (MEセンター)
研究・研修責任者名 (所属)	明穂一広 (MEセンター)
研究・研修実施者名 (所属)	明穂一広、梅田宏幸、長谷川竜馬、岡田直之、石飛翔吾 (MEセンター)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input checked="" type="checkbox"/> 認定更新 <input checked="" type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果 ()
該当者名 (所属)	明穂一広、梅田宏幸、長谷川竜馬、岡田直之、石飛翔吾 (MEセンター)
学会名 (会期・場所)、認定名等	体外循環技術認定士、人工心臓管理技術認定士
演題名・認証交付元等	日本人工臓器学会、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本体外循環技術医学会
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有 () <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本人工臓器学会・日本体外循環技術医学会では「医師の指示のもとで行う人工心肺等の体外循環装置を操作するための技術を有する能力」を評価する目的で体外循環技術認定士制度を設置している。人工心臓管理技術認定士認定試験は、「医師の指示のもとで行う(補助)人工心臓症例の管理に関する技能・知識を有する能力」を認定するものです。今回は体外循環技術認定士・人工心臓管理技術認定士取得・維持を目的にしている。

②方法

日本体外循環医学会が主催する教育セミナー、日本人工臓器学会が主催する教育セミナーを受講する。

③成果

現在、日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本人工臓器学会・日本体外循環技術医学会では、心臓血管外科基幹病院認定機関の条件が「体外循環技術認定士 1 名以上」となっており、当院では現在 3 名が該当している。小児心臓血管外科の開設により、体外循環の症例数は、倍以上に増加しており、体外循環認定士による安全な体外循環の施行が求められてきている。TAVI など高度な手術の対応が求められている。その為、体外循環認定士を増やすため、日本体外循環技術医学会主催の教育セミナーに 2 名が参加した。本年度は体外循環認定士試験があり、1 名が受験し合格した。結果、当院の体外循環認定士は 4 名となり、今後の島根県の心臓血管外科手術、ICU における ECMO などを積極的に行える体制が整いつつある。

今後、体外循環認定士を順次増やすために、セミナーの受講を計画的に行っている。人工心臓管理

技術認定は、今後の取得に向けて単位取得を行った。

今後は体外循環用のデバイスであるインペラ補助循環用ポンプカテーテルに使用に際して、体外循環認定士の資格が必要になる。人工心肺、ポンプカテーテル、人工心臓など体外循環を安全に適切に使用するために、技術と知識の向上を目指して行きたいと考えている。それに加え新人教育にも重点を置き次世代の育成に力を入れていきたい。

また、COVID-19では、ECMOを使用して重症者には対応する必要がある。しかし、ECMOの操作・管理には多くの知識と経験が必要であり、当院でも3名の臨床工学技士のみが操作・管理を行っている。症例数が少ない中で、技術と知識を身につけるために、今後も積極的にセミナーに参加する必要があると考えている。

	受験必要単位取得人数	取得(更新中)
体外循環認定士	1	4
人工心臓管理技術認定士	1	